

一

般

質

問

開催日 6月15日・19日



Q & A

町民の「声」を代表して
9人が質問

一般質問



伊木 真由子

健康寿命延伸への
取り組み

問 本町の健康寿命をどのように捉えているか。

答 府が全国的に下位にあることから、本町も低いと考える。しかし本町は人口が少ないことから、一般的な算出方法で数値化することは難しい。

問 健康寿命延伸にあたって今後どのような取り組みが必要だと考えるか。

答 住民主体の活動を広げ、地域寿命を延ばしていくこと。そして、少しでも早くから行うことが重要だと考える。

問 府内90%の自治体は健康増進計画を立てている。健康に対して住民の意識が形成されるよう本

一、健康寿命延伸への取り組み
二、音のバリアフリー

町でも計画が必要ではないか。

答 計画がないから、何もしていないわけではない。取り組みの礎となる本町の現状に即した計画はあるべきだと考える。



音のバリアフリー

問 本町に聴覚障がい・老人性難聴の方はどの位いると考えるか。

答 聴覚障がい者は33人、老人性難聴者は把握できないが、増加傾向にあると考える。

問 老人性難聴は認知症の引き金にもなり、早めの対応が必要である。老人性難聴への理解や、早期発見できる機会・対応

策など住民の方への機会を増やせないか。

答 障がいの有無に関わらず、社会とコミュニケーションが取れる状態をつくっていくことが必要である。具体的な取り組みに関しては、今後検討する。

問 本人でできることとして、補聴器の装用がある。行政が聞こえを補助するシステムとして磁気ループがあると思う。新庁舎建設の際に検討できないか。

答 福祉のまちづくり条例に対応した施設を考える中で、今後検討していきたい。

